

1 月 19 日 : ブルーチップが下支えし VN 指数は反発

19 日水曜日は大型株が買われ反発したものの、まちまちの展開となった。

ホーチミン市場では、不安定な相場ながら VN 指数は前日から 3.85 ポイント上昇し、1,442.79 ポイント (+0.27%) で引けた。

同指数は、テト休暇を前に投資家が利益確定を急いだことから、幅広いセクターで売られ前日まで 4 日続落となっていた。

市場ではポジティブな雰囲気が漂っていたが、流動性は前日から大きく落ち込んだ。ホーチミン取引所では 260 銘柄が上昇、217 銘柄が下落、41 銘柄は変わらずだった。

売買代金は 23 兆ドン (約 10 億米ドル) で、出来高は 6 億 37 百万株だった。

大型株の反発が相場を下支えし、時価総額上位 30 銘柄で構成される VN30 指数は 5.49 ポイント高の 1,482.55 ポイント (+0.37%) で引けた。

VN30 構成銘柄のうち、18 銘柄が上昇、10 銘柄が下落、2 銘柄が変わらずだった。

マサングループ (MSN) が 3.8% 上昇し、相場を牽引した。

またベカメックス (BCM)、SSI 証券 (SSI)、ベトナムラバーグループ (GVR)、ビンホームズ (VHM) など堅調で、BCM は 7% 高とストップ高まで買われた。

キンバックシティ (KBC)、VNダイレクト証券も大幅に上昇し、それぞれ 6.73%、7% 上昇した。

しかし、テト休暇を前に大型株を売って利益を確定する動きも広がり、特に BIDV 銀行 (BID)、ベトコムバンク (VCB)、ベッティンバンク (CTG)、サイゴンハノイ銀行 (SHB)、MB バンク (MBB) などの銀行株に売りが広がった。

デベロップメント・インベストメント・コンストラクション (DIG) も 2 日連続でストップ安となった。

ハノイ取引所では、ハノイ指数が 11.9 ポイント下落し 409.31 ポイント (-2.83%) で 3 日続落となった。

出来高は 1 億 160 万株、売買代金は 1.8 兆ドンとなった。

外国人投資家はホーチミン市場で 5 兆ドン売り越したのに対し、ハノイ市場では 46 億ドンの買い越しとなった。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。